

JCOMM *news*

日本モビリティ・マネジメント会議ニューズレター

平成30年度JCOMM賞発表!

JCOMM実行委員会では、平成30年度JCOMM賞の各賞受賞者を選定致しました。受賞者の方には、第13回JCOMMにて、表彰を行います。

プロジェクト賞



**高齢者のマイカー
依存脱却に向けた
モビリティ・マネジ
メント**
～運転免許更新制度の改定を
踏まえた公共交通利用促進
プロジェクト～



国土交通省北海道運輸局交通政策部、釧路市総合政策部都市経営課
釧路市老人クラブ連合会、一般社団法人北海道開発技術センター
筑波大学公共心理研究室

デザイン賞



**わった～バス党
高校オリジナル
バスマップ**



沖縄県企画部交通政策課
株式会社アカネクリエーション
バスマップ沖縄 主宰 谷田貝 哲

JCOMM会議 全体プログラム

7/27
[金曜日]

【開催地企画】10:00～12:00
「“やらかして”こそ見える豊田市の未来」

●講演

栗本 光太郎 氏 [豊田市都市整備部 副部长]

●パネルディスカッション

コーディネーター:松本 幸正 氏 [名城大学 教授]

パネリスト:甲村 尚義 氏 [豊田市都市整備課]
河木 照雄 氏 [豊田まちづくり(株) 代表取締役]
山崎 基浩 氏 [(公財)豊田都市交通研究所 次長]
山下 裕子 氏 [全国まちなか広場研究会 理事]
大藪 善久 氏 [(株)日建設計シビル 設計主管]

【オープニングセッション】13:00～15:15

- 1.開会式
- 2.祝辞
- 3.基調講演
- 4.特別講演
- 5.JCOMM授賞式

休憩5分 (15:15～15:20)

【ポスター発表A】15:20～16:40

【企画セッション】16:40～18:15

「高度化する将来のモビリティとMMの展開」

意見交換会 18:30～

7/28
[土曜日]

【口頭発表 1～3】9:00～12:10

「MMとオープンデータの活用」

「高齢者とQoL(生活の質)とMM」

「健康とモビリティ・まちづくり」

休憩 (12:00～13:10)
JCOMM総会 (12:10～12:40)

7/29
[日曜日]

【ポスター発表B、口頭発表ツール展示】
13:10～14:30

【口頭発表 4】14:30～15:30

「地域のモビリティとMMの役割の再考」

【情報提供】15:30～16:00

国土交通省より

【クロージングセッション】16:00～16:30

閉会挨拶、次回開催地挨拶

【現地見学会】10:00～15:00頃

【会場】とよたエコフルタウン

(愛知県豊田市元城町3-11)

【次世代モビリティ体験試乗会】

普段乗ることができない車両がたくさんあります!
この機会にぜひご体験ください!!

●体験試乗

- ハーモライド(超小型EVシェアリング)
- ウィングレット(立ち乗り型パーソナルモビリティ)
- i-ROAD(3輪型の超小型EV)
- MIRAI(燃料電池自動車)



i-ROAD



ウィングレット

●展示

- 自動運転車両(コムス、電動カート)
- CARTIVATOR(空飛ぶクルマ)※1/5スケールモデル
- SORA(新型燃料電池バス)

※詳細はJCOMMホームページをご覧ください。

株式会社アカネクリエーション



当社はバス広告事業を出発点に昭和50年に創業。沖縄本島内路線バス広告やモノレールラッピングを一手に引き受けるなど、「街メディアのエキスパート」として成長してきました。近年ではクライアントニーズや社会の変化に合わせて、マスメディア、インターネットやイベント、マーケティング等の分野も総合的にサポートする広告会社として事業を拡大、平成27年に創立40周年を迎えました。

交通・OHCメディア、MIC、クロスメディア・プロモーションを柱に、企画・デザインから運営施工までワンストップで担える体制で、「スピード&クオリティ」を念頭にサービス提供を心がけています。

モビリティ・マネジメントへの取組みは、取引先でもある交通事業者の利用促進支援が契機となって始まりました。那覇市新都心を巡回する「アスカワコウヘイ」デザインバス、読谷村「鳳バス」をはじめとするコミュニティバスのデザイン・ツール開発、EVレンタカー導入PR、小規模離島航空路活性化など、新たなモビリティ導入・利用促進に携わってきました。

その中で平成24年から継続して取り組んでいるのが、自家用車から公共交通への利用転換をめざす「わたた〜バス党」によるコミュニケーション活動です。どこか憎めない「おじい、おばあ」の語り口で「バスがかわる。バスでかわる」をテーマにメッセージを伝えることで、生活者、交通事業者双方が「シブゴト」として交通問題を考え、公共交通にトライしてもらう機会創出の試みを続けています。

平成26年より参加させて頂いているJCOMMは、さまざまに知見

意見に触れ、刺激を受ける貴重な機会です。昨年手がけた「高校生オリジナルバスマップ」は、今年度のJCOMMデザイン賞を受賞させて頂いたとき、大きな励みになりました。

極端なマイカー依存、全国一の渋滞、観光客の二次交通不足などの問題を抱える沖縄ですが、ここ数年の間に、那覇空港拡充、バスターミナル整備、基幹バス導入、自動運転導入、モノレール延伸など交通環境が大きく変わり、公共交通に脚光が浴びることが予想されます。

今後も「街を映かします」をモットーに、交通事業者と長年培ってきた関係を活かし、利用者と交通事業者をむすぶ架け橋の一端を担えるよう、貢献していきたくと考えています。

◀「高校生バスマップ」制作の様子



「わたた〜バス党」ラッピングバス▶



鈴鹿F1開催時の交通需要マネジメント

鈴鹿市 地域資源活用課 観光モータースポーツ振興G

三重県鈴鹿市には地区最大の観光資源である鈴鹿サーキットがあり、年間多くのモータースポーツイベントが開催され、多くの観戦客が訪れます。鈴鹿サーキットへのアクセス交通手段は様々ありますが、その中でも自家用車は利便性に優れるとともに、来訪する観戦者の嗜好性からその分担率が非常に高く、イベント開催時には最寄りの高速道路ICである東名阪鈴鹿ICへの交通集中だけでなく、鈴鹿市内全域で交通渋滞などの様々な課題が発生します。

2009年に鈴鹿でのF1日本グランプリ開催が再開される際にも同様の状況が想定され、交通環境の改善や地域振興に取り組むために、鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会が設立されました。

協議会では、「鈴鹿周辺の渋滞解消時間の低減を全体目標に掲げるとともに、公共交通機関の利用分担率の向上などを目指し、公共交通向け、自家用車向けの様々な交通円滑化に向けた取り組みを2009年から実施してきました。毎年の取り組みの中で得られた知見や発現している効果を踏まえ、改良や追加を行いつつ今年度10年目を迎えます。

近年は、協議会のホームページから事前に情報を発信するだけでなく、当日の最新情報をSNSで発信するとともに、観戦者がスマートフォンでの位置情報機能を使って交通状況を発信できる参加型の情報提供「AcPro(アクプロ)」により、周辺の交通情報をリアルタイムに発信しています。各種情報提供の実施により渋滞が激しいルートや時間帯を回避した交通行動の促進につながっています。

また、鉄道の増便に加えて、鈴鹿サーキット近傍を通る国道23号中勢バイパスの一部区間で通行規制を実施し、鈴鹿サーキットと近鉄白子駅を結ぶ臨時シャトルバスの専用区間として運用することで、定時性を確保し、

顕著な遅れが発生することなく運行できています。

結果として、全体目標は概ね達成しているとともに、公共交通の分担率も向上し3割以上を維持しています。今後も関係機関と共同で取り組みの更なる高度化と浸透を図っていくとともに地域とも密に連携し鈴鹿でのF1開催を一層盛り上げていきます。

国道23号中勢バイパス規制によるシャトルバス専用区間として運用



【規制実施区間】中勢バイパス 野町西交差点～徳田町北交差点
 【規制実施日時】
 ・予選(土曜日)6:00～20:00(バス最終便が通過するまで)
 ・決勝(日曜日)6:00～21:00(バス最終便が通過するまで)
 ※フリー走行(金曜)は通行規制なし



↑参加型情報提供「AcPro(アクプロ)」

編集後記

現在、2018FIFAワールドカップの熱い戦いがロシアで繰り広げられており、寝不足の日々が続いています。どこが世界の頂点に立つのか、日本はどこまで勝ち上がるのか、とてもわくわくしますね!今回ご紹介したのは鈴鹿サーキットで行われるF1開催時の交通対策ですが、世界各国から集まる大勢のサポーターをロシアでは、どのような交通手段でどのように誘導しているのかが気になってしまふ今日この頃です。

株式会社 建設技術研究所 山口 大輔